

もっと知りたい
ふるさと

54 寂蒔上町の史跡と青麻大神

北国街道沿い、寂蒔上町の
水除土堤周辺には多くの史跡
があります。

土堤の横はかつて、地藏堂
のあった地籍です。その真向
いに松尾芭蕉翁の「名月や児
達ならば堂の縁」の句碑があ
ります。松尾芭蕉が門人と共
に、木曾路から猿ヶ番場峠を
經由し、姨捨の長楽寺で月を
眺め、句を詠み、善光寺を訪
ねた折、江戸に向かう帰路、
北国街道沿いの地藏堂の縁側
に腰かけ遊ぶ子供たちの姿を
詠んだ句です。

また、奇香園蘭頂翁が詠ん
だ「花に酔い月に醒たるむし
る哉」の句碑も建立されてい
ます。

蘭頂翁は地元寂蒔の宮坂市
郎左衛門で、天保14年に17歳



左に水除土堤、右に芭蕉塚

で江戸に上り、俳諧や漢学を
学び、嘉永元年22歳で郷里寂
蒔に帰りました。そして、地
蔵堂隣の自宅で家塾を開き、
手習師匠として、幕末から明
治時代まで漢学と俳諧の道を
教えました。

多くの青年がその門人とし
て世に出ました。

宮坂伯二翁は交友の一人で
「月田每我はひとりの影ぼう
し」の句碑も、蘭頂翁の横に
併設されています。

また、近隣住民の「講中」に
よって建立された「道祖神」
「庚申塔」「馬頭観音像」など
の碑も点在しており、それぞれ
歴史を偲ぶことが出来ます。

その中でも珍しい祠と「青
麻大神」と彫られた自然石の
碑が上町集会所の横に建立さ
れています。何時の頃設置さ
れたのか分かりません。その
青麻大神について地元には資
料も乏しくインターネットな
どを参考に調べてみると、次
の3つの項目がありました。

その①青麻権現
青麻権現という神を祀った
といわれます。その青麻権現
は八百万の神の一つです。
その本社は宮城県仙台市宮

城野区にある神社で、天照大
御神・月読神・天之御中主神
を主祭神とし日の神・月の神
星の神を常祀する三光社の総社
とし、常陸坊海尊を併祀しま
す。常陸坊海尊は靈感により
中風を封じ、また社家の穂積
氏が水運に携わっていたこと
により、海上安全の信仰もあ
るといわれています。

その②中風除けの神様
地域によって、古来より「中
風除けの神様」として信仰さ
れていました。寂蒔の青麻大
神は中風除けのため、「青麻講」
による講中によって設置され
たと推測するところ。昔
の人々は心のよりどころを信
仰に求めた証でもあると思わ
れます。

3度詣れば、生涯、中風
の難から逃れるとか、中風に
悩む人が「オン、シシ、カダヤ
ソワカ」という呪文を3回唱
えると靈感あらたかになると
もいわれました。

近在では、旧戸倉町柏王地
区の「柏王神社」境内にも祠
と碑が設置されています。最
近新しく建立されたものと思
われ、中風除けの神としての
説明が明示されています。



寂蒔上町の青麻大神

中風は、中気とも言います
が、現在では脳血管障害の後
遺症である半身不随、手足の
しびれや麻痺などをさす表現
として用いられます。

その③青麻の語源
青麻とはイラクサ科の多年
草で芋麻カラムシという古く
からの植物です。越後上布や
小千谷縮・奈良晒などの原料
として珍重されました。

江戸時代の青麻の代表的産
地は、山形・福島・新潟の3
県で、中でも山形は我が国有
数の産地でした。

青麻を栽培するには、肥沃
な土地が充てられました。し
かし、青麻の根は他の植物と
違って強く張るため、後作は
なかなか困難でした。

「青麻権現」は青麻の豊作
を願って、多くは文化・文政
年間(1804~1829)に
建立されました。かつての青
麻栽培の盛時を偲ばせるもの
でもあります。